

明拓皇甫君碑

光緒元年南海倫孟臣  
歲并誌



常豈若豐起蕭墻禍  
生蕃翰強踰七國勢  
重三監具有蹈水火  
而不辭臨鋒刃而莫

# 「落ち穂拾い記」 ②④

## 『皇甫誕碑』 (上)

二碑集字比較(図版⑤)

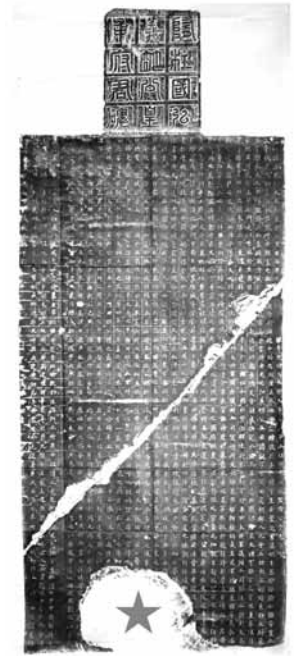
「皇甫誕碑」 「九成宮醴泉銘」



「和刻皇甫誕碑」 図版④



『皇甫誕碑』原碑  
西安碑林(図版②)



(図版③)

初学の楷書の手本として、唐の三大家の一人である歐陽詢の『皇甫誕碑』は多くの方に学ばれている。西安の碑林博物館に原碑(図版②)はあり、今もなお見事な楷書の碑文を見ることが出来る。多くの拓本が取られたのであろう。日本にも江戸時代後期には、原刻拓本が長崎貿易でもたらされ、それを基に韓天寿という人物が翻刻し、法帖拓本として流布された。(図版④) 明治以後から現代にかけても、この碑の原刻拓本は多く輸入されたように目にする機会が多い。『皇甫誕碑』は、歐陽詢の名作『九成宮醴泉銘』とともに楷書手本の極則といわれ、ほぼ同時代の作であるが、趣がやや異なる。『九成宮醴泉銘』に比べて起筆や横画に、力強く鋼の様な弾力のある筆勢を顕著に示す(図版⑤)。清末あたりの拓本を早くに入手し、30代の頃に赤坂の雪江堂で、明末清初拓とされる虫損のある拓調の重い剪装本を入手した。皇甫誕碑の明拓本は、普通の清末整拓本に見られる碑の下部の丸い大きな破損★(図版③)がなく、整拓本2行目の末にある三監の「監」字(右頁図版の3行目)をはじめとして各行末の文字を見ることができ、清朝後期の拓と比較すると百字ほど多く見ることが出来る(右頁主図版①)。当時、碑刻拓本の新旧や真偽を見分ける参考書とされる『増補校碑隨筆』などを見て興味を持ち始めた頃で、虫損があるが確かな旧拓であるとして苦労して入手した思い出がある。楊守敬などと交流のあった倫孟臣という人物の旧蔵で、旧蔵者の題簽や跋文、鑑蔵印があり、折帖を整えて、表紙や書帙を作り今もなお愛蔵している。

伊藤滋(書齋名・木鷄室)

# 書道芸術院 令和の群像 (2021)



佐藤希雲

## 「書への接近・展開・連続」

小学1年生の頃、近所の書道塾に通い始めたが、友達と遊ぶ時間が制限されるのに嫌気がさし、やめてしまった。習い事は他にそろばんもあったが、ともに物にはならなかったようだ。  
中学時代に1回、横浜高校主催の席書大会に学校代表の一人として参加したが、授業を堂々と抜けて行けたことがうれしかった程度で、結果は覚えていない。翠嵐高校進学時、芸術選択は美術にしたので、書道

との接点はなかった。ただ、担任が万葉学の泰斗である武田祐吉先生のご子息で、国語の授業もわかりやすく、何より板書の字が美しかった。今、思えば、その字にあこがれ、高校の国語教師を目指すことになったのだと思う。

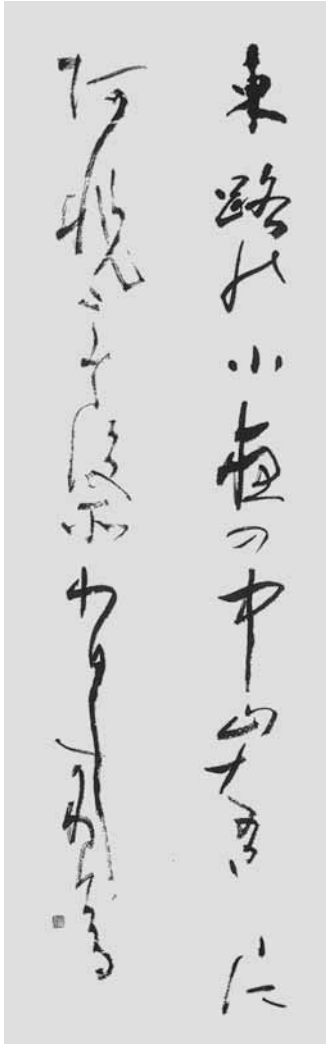
大学でサークルを選ぶ際は、迷うことなく書研の門を叩いた。明治大学書道研究部は伝統があり、OBには田村空谷先生がいらっしゃって、講師は笹本扇城先生であった。

入部後、法帖（それは二玄社の書跡名品叢刊であったが）なるものを見せられ、臨書するのが練習だと教えられた。九成宮體

泉銘も孔子廟堂碑も全く同じように見え、何が違うのか分からなかった。新入部員の課題として牛概造像記が与えられ、これを全紙に2字書くという。わけもわからず練習を重ね、清書は1枚、失敗は許されず、緊張の中で全ては終わっていた。

学園祭の後、好きな古典を選べ、と言われ、皆が漢字を選ぶ中、高野切第三種を選択した。他の人と違うことをしたかったのと、OBの福島一浩先輩から仮名の手ほどきを受け感銘したからであった。見えるようには書かず、特に転折はしっかりと、と教えられた。「沈めて、立てて」という先輩の声は穂先の扱い方の助言であったが、今でも心の中にしまい込んでいる。高野切は何度も全臨し、夢に見るほどになったが、サークル活動は合宿やらコンパやらが中心となる。当時は四谷にあった書道芸術院にもアルバイトに行った。競書の審査日の名前書きのお手伝いや競書誌の発送である。友人と二人で「書の教室」の発送を2時間終わらせ意気揚々と帰ったことを思い出す。

大学3年生の時、書道芸術院展に初出品し、今に至っている。扇城先生亡き後、辻元大雲先生、石井明子先生の温かなご指導の下、自由に書かせていただける幸せを実感している。「接近・展開・連続」とは大西鐵之祐のラグビー理論であるが、今回は「接近」の話に終始し、申し訳ない。



2021年度書道芸術院秋季展「逢ひみて後ぞ」

佐藤希雲書

# 書のひろば

理事長 辻元大雲

## 第73回全国学生書道展審査終了

73回目を迎えた全国学生書道展は10月25日作品搬入され、半紙、半切1/2部門に全国から多数の作品が寄せられた。

### 第73回全国学生書道展出品統計

( ) 内前回展

	団体数	出品点数	出品人数
半紙の部	150 (164)	11,124 (12,051)	6,058 (6,496)
半切1/2の部	98 (104)	2,201 (2,255)	1,731 (1,818)

昨年より若干の減少があったが、新型コロナウイルス蔓延の影響を考慮すればやむを得ない状況であった。

審査は11月3～8日にかけて行われ、A賞は3日の事前選考を経て4日、選考委員によって決定した。半紙部門から95名、半切1/2部門から35名、B賞以下特別賞に両部門合わせて300点が入賞し、東京都美術館会場に展示発表される。

来年2月6日の表彰式(帝国ホテル)は開催される予定で、昨年は大々的に実施できなかった無念を振り払う晴れの舞台としたい。

大賞受賞者による席上揮毫会は中止とさせていたのだが、会場でのワークショップは会期初日(2月5日)、最終日(2月11日祝日) いずれも午前10時から開催する予定。多くの方々の参加をお願いしたい。

第75回記念書道芸術院展  
一般公募・無鑑査作品搬入・審査  
創立75周年記念全国巡回展会場決定

学生展の本体である書道芸術院展は第75回の記念展を迎える。作品搬入は一般公募と無鑑査は未表装で、11月29日に行われ、12月11・12日に鑑別審査が柳橋の東京文具共和国館で行われる。コロナ禍の影響がまだ心配される中、感染防止対策を充分に行って、審査会場も広めにとって行われることになっている。審査会員候補以上の搬入・審査は来年1月19日書類搬入、1月28・29日選考が行われる。

〈第75回記念書道芸術院展〉

- ・会期 2月5日(土)～11日(金・祝)
- ・会場 東京都美術館
- ・表彰式 2月6日(日) 13:30開式
- ・記念展に当たり功労者表彰も式前後に行われる。

記念事業の柱である役員作品全国巡回展は来年3月中旬から11月にかけて全国13の総支局にて開催される。既に会期・会場も決定し開催準備を各総支局で進めている。

(書道芸術院創立75周年記念役員作品全国巡回展)

- ・南関東総局 3月8日～13日  
千葉県立美術館
- ・東北総局 3月18日～23日  
せんだいメディアアテーク
- ・四国支局 3月30日～4月3日  
安芸市立書道美術館
- ・北陸支局 4月8日～10日  
高岡文化ホール
- ・山陽支局 4月19日～24日  
岡山天神山文化プラザ
- ・九州支局 6月16日～19日  
コスモイト行橋
- ・山陰支局 7月14日～18日  
倉吉博物館
- ・北日本支局 7月28日～31日  
八戸市美術館
- ・北関東総局 8月5日～10日  
高崎シティギャラリー
- ・北海道支局 9月6日～9日  
大通美術館
- ・甲信越支局 9月30日～10月2日  
伊那市文化会館
- ・東京総局 10月4日～9日  
銀座フェニックスプラザホール
- ・関西総局 11月8日～13日  
奈良県文化会館

令和3年度書道芸術院創立記念日講演会 鍋島稲子講師により開催

昨年開催を見送った創立記念日恒例の講演会が1年ぶりに開催された。講師は昨年ご依頼した、台東区立書道美術館主任研究員の鍋島稲子氏に再度お願いし「清朝書画コレクションの諸相―

中村不折・高島槐安収集品を中心に」と題して、コロナ禍による参加者制限のため100名あまりの参加者で行われた。東京国立博物館との連携企画展に合わせたタイムリーな講演内容で、参加者にとってまたとない機会となった。



講演会風景

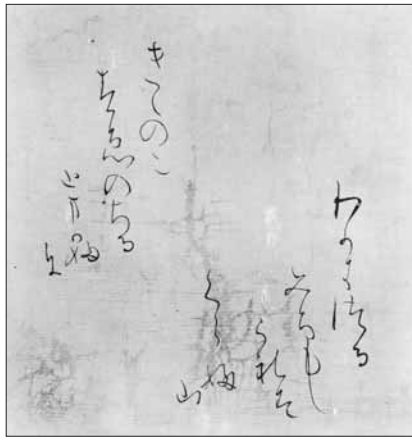
講演会に先立ち公益財団通常理事会が同会場にて行われた。

第75回書道芸術院展・第73回全国学生書道展開催への諸案件(研究会、表彰式、祝賀会など)、記念事業について、人事案件などを審議、来年度の単位認定岡山講習会、秋季展開催報告などが審議された。詳細は次号院報にてご確認を。

かなの書式 散らし書き③

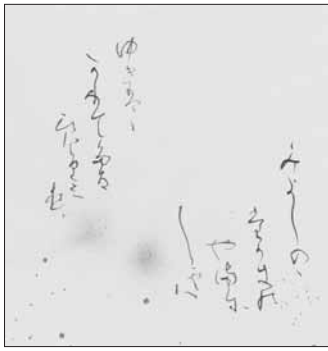
寸松庵色紙による創作への展開 II

行の塊が右下と左上に分かれた形式です。寸松庵色紙には、このように行の集団を二つに分けた構成がいくつもあります。



ここで注目したいのは  
 ・二つの塊を、同じにしない  
 ・後半の集団をやや傾斜させて、扇の骨が要に集まるようにまとめる

参考作品



み吉野の山城の山に白雲は行きはばかりて  
 たなびけり見ゆ  
 (万葉集)

前半3行目までは漸次下がり、4行目で上がります。(この下がり方が規則的になっていないことに注意)5行目に添えた八は、前半を占める役割をしています。この八がなかったら...と思うと、後半に向けての重要なバランスとして必要です。  
 後半の塊も、大小の文字の組み合わせや行間の広狭など、古筆に則って作成してあります。歌を換えて書くことで、どの文字を用いたらよいか工夫するため構成力が培われます。

基礎基本講座

Ⅲ 迫力・豪放さを意識した作例  
 釈文 満天の夕焼雲が移動せり  
 作者 加藤敬郎



①



②

- ・筆……山馬と羊毛の兼毫
- ・画面いっぱい、溢れんばかりの気迫をもって書いた。
- ・山馬と羊毛筆の兼毫のため、強さ(山馬)と量感(羊毛)の調和がとれたが、穂鋒が割れ、線が複数本出て読みづらくなった。しかしあまりこだわらず書いたことで迫力、豪放さも増幅した。
- ・筆……中鋒羊毛
- ・潤の量感と破筆の豪放さをねらった。
- ・1行目は比較的まっすぐにおろし、2行目にうねりをつけて、動きを出した。
- ・行頭から行尾にかけて少しずつ字を小さくすることで威圧感を出した。また各々の字についても頭部を大きくし、脚部を小さくし、底辺をそろえることで安定感が増してきた。
- ・「移動」の渴筆と字間の余白に明るさと広がりが出た。

第75回記念

# 書道芸術院展

— 併催 第73回 全国学生書道展 —

2022年2月5日(土) - 11日(金・祝) 9:30~17:30 2月7日(月)休館日  
(入場は30分前まで) \*11(金・祝)は14時閉室

## 上野公園 東京都美術館

(ロビー階 第3・4展示室 1階 第3・4展示室 2階 第2・3・4展示室)



私財で日本の書道文化の  
普及・発展に貢献する  
財団法人です。

一般公募・無審査 作品・書類受付	2021 11月29日
審・審候 書類受付	2022 1月19日
作品搬入	2022 1月27日

主催 公益書道芸術院  
財団法人

後援 文化庁・公益全日本書道連盟  
社団法人 毎日新聞社・一般財団法人 毎日書道会

第75回記念 書道芸術院展併催

# 第73回 全国学生書道展

・全国学生書道展指導者作品展示

とき 2022年2月5日(土) ~ 11日(金・祝) 2月7日(月)休館日  
9:30~17:30 (入場は30分前まで) \*11日は14時閉室

ところ 上野公園 東京都美術館 一学生展展示一  
2階 第2展示室  
(ロビー階 第3・4展示室 1階 第3・4展示室 2階 第2・3・4展示室)

作品募集締切 10月25日(月)

主催 公益書道芸術院  
財団法人

後援 文化庁・公益全日本書道連盟・毎日新聞社  
社団法人 一般財団法人 毎日書道会・毎日小学生新聞



私財で日本の書道文化の  
普及・発展に貢献する  
財団法人です。

伊都内親王願文(平安・833年) ③

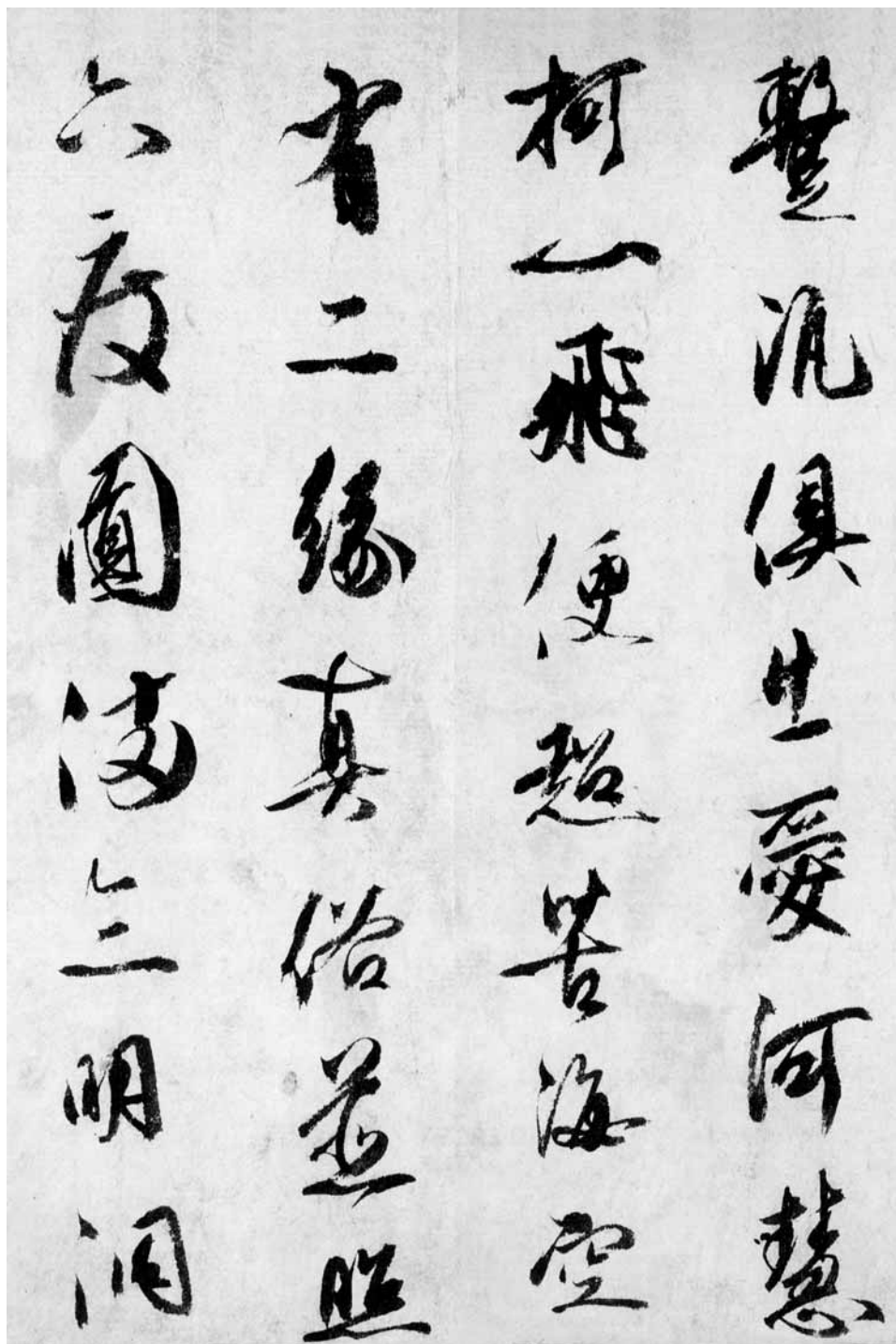
(伝 橘逸勢)

漢字研究部臨書課題

|| (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

|| (A 大作の部 毎日墨筆委員・倉サイズ以内、2×6尺・金紙も可)  
(B 小品の部 半切以上切以内・金紙・約68cm以内・奇欄も可) 当該古典の左記掲載部分以外も可。



(掲載図版・65%に縮小)

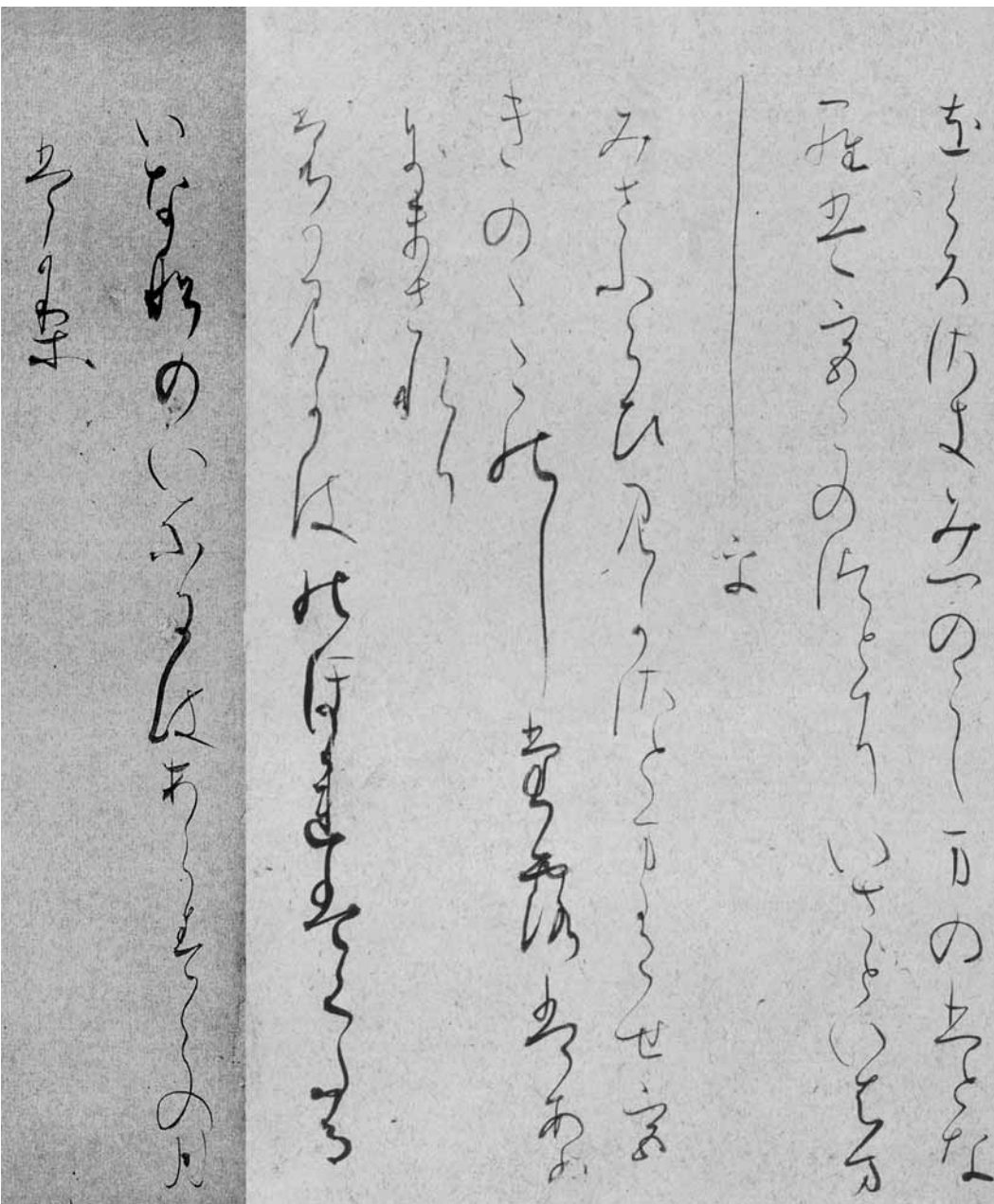
宮内庁保管

※落款を必ず入れる。  
署名、もしくは〇〇臨  
(押印のみも可)

〔解説〕 橘逸勢(778?~842?) は、延暦23年(804)からおよそ2年間、空海・最澄らとともに遣唐使として唐に渡った。そこで、多くの書を学び、とくに王羲之・王献之・李北海・顔真卿の影響を受けた。唐人は逸勢を橘秀才と賞賛したという。  
逸勢の真跡として確認できるものは今日ほとんど伝っていない。その中で、空海の三十帖冊子の一部分、興福寺南円堂銅燈台銘、伊都内親王願文が逸勢の筆とされているが確証はない。後世、空海・嵯峨天皇とともに三筆と称せられている。  
(編集部)

誓汎、俱生愛河、慧柯一飛、便超苦海。空有二縁、真俗並照、六度圓波、三明洞。

せきどほんこきんわかしかう  
関戸本古今和歌集  
(伝藤原行成筆)



※掲載図版・80%に縮小

(個人蔵)

かな研究部臨書課題  
特別研究部臨書課題

〔半紙普通判(料紙可)・縦長に使用〕  
別紙を裁断して貼付も可。半信紙は半紙サイズに切って使用のこと。  
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)  
B. A. 大作の部は毎日展覧委員会(館員サイズ以内)20×60cm、全紙も可  
小品の部は半紙以上、半切以内(全紙は約68cm以内)も可(縦横自由)  
△当該古筆の左記掲載部分以外も可。▽

〈よみ〉

をぐろさきみつこのじまのひとな  
らば宮このつとにいざといはま  
しを

みさぶらひみかさともうせ宮  
ぎのこのした露はあめ

にまされり  
もがみがはのばればくだる

いな船のいなにはあらずこの月  
ばかり

〈解説〉

関戸本古今集は、歌一首を2、3行に並列式に書写されている。詞書・読人の高低の布置・墨色の変化等によって一行を整え、行と行との響き合いを考慮している。また、歌の書き出し部分は静かに入り、途中で墨継ぎをしてから次第に筆圧を強く、しかも運筆に加速度を付けて盛り上げていく方法が多く見られる。上記の写真図版(東歌・巻二十)は、歌の末尾の行の変化、字数との関係が見事に表現されている。三首それぞれの3行目の行脚が2文字(しを)、5文字(にまされり)、3文字(はかり)を配した構成で、関戸本古今集の構成のすばらしさが表出された部分である。(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しよう。

※落款を必ず入れる。

○○臨(押印のみも可)



漢字規定 初段以上 【二月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

小竹石雲選書



黒山鬼窟

よみ (黒山の鬼窟)

書体 自由

## 習い方解説 (三)

小竹石雲

黒山鬼窟

(正法眼蔵)

(黒山の鬼窟)

餓鬼が棲む暗黒の山のこと。この山は、煩悩や妄想が起こる場所といわれることから、世俗的な常識や分別にとらわれて身動きできない状態を表す。

いつの世も、人は共生のもとにルールを作る。それが時として煩わしさとなることもあり、逃避したい気持ちになることがある。人間って身勝手なものである。深刺(はつら)とした健康的な木簡に救いを求め書いてみた。創作するうえで運筆のリズムが肝心。ここでは一字に一箇所は強調する線をどこかに配し、それを起点に強弱の変化をつけるようなリズムをもって書いてみた。自由に伸ばした手足が、新鮮な造形を生みだしてくれる。躊躇(ちゅうちゆ)することなく大胆に書こう。動きとリズムを大切にしたい。

漢字規定 秀級以下 【二月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

前田龍雲選書



雲心月性

よみ (雲心月性)

書体 楷書

### 習い方解説 (三)

前田龍雲

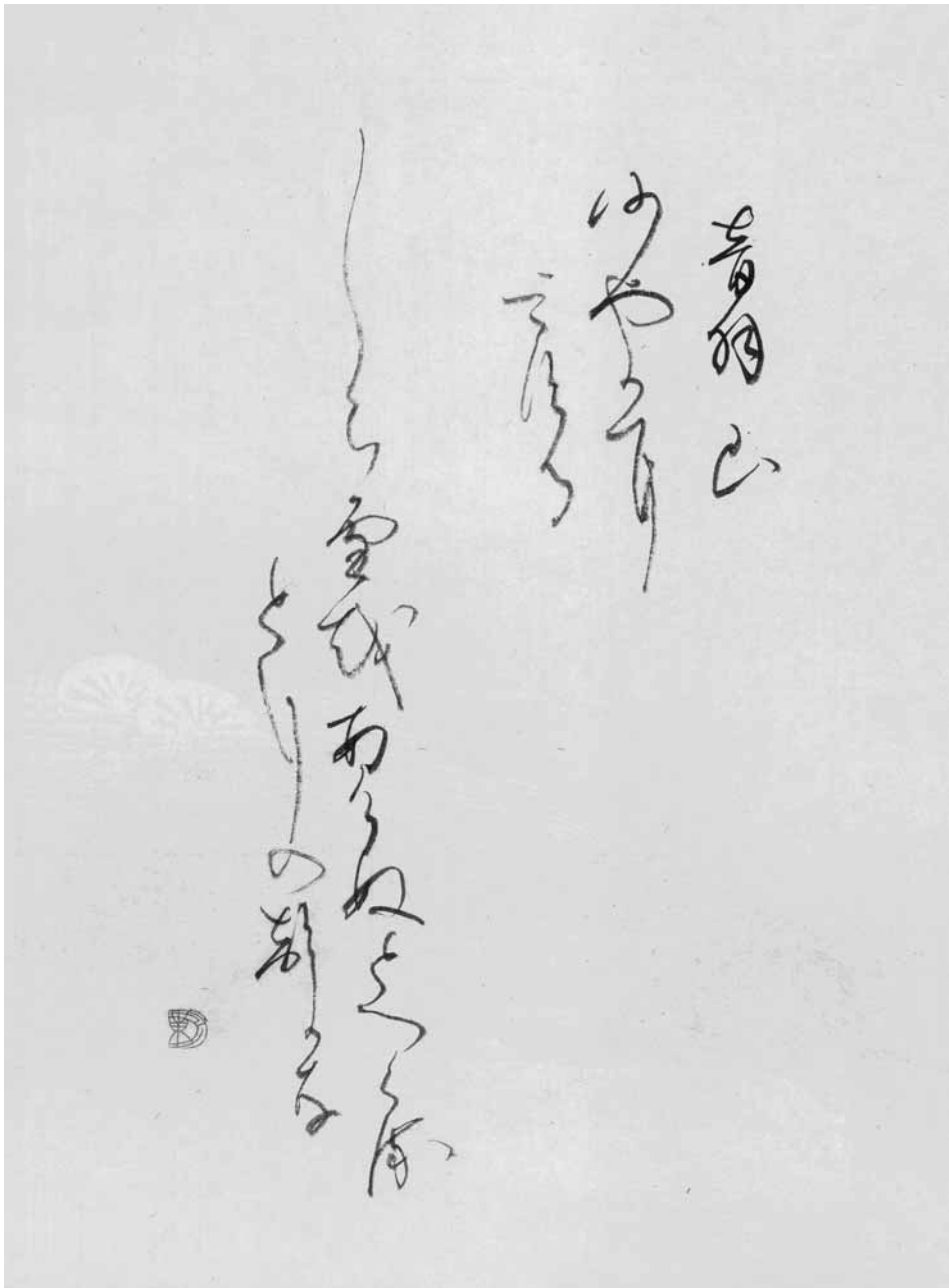
雲心月性  
(雲心月性)

意味は、雲や月のように高く澄んだ心。俗世の名譽や利益を求めようとしない、無欲で清らかな心。なかなかこのような心境になるには難題ですが、自戒のためにこの句を選びました。

初唐の三大家である歐陽詢の筆法を参考に書きました。字形は縦長に構成され、縦画は垂直。横画も全て直線的で、右肩上がり等間隔に配置され、一見平行線に見えますが絶妙に変化をつけています。端正な字形で特に胸が引き締まっていることから背勢と呼ばれています。中でも九成宮醴泉銘は点画の組み立てが精緻で「楷書の極則」とも言われています。

〈九成宮醴泉銘〉





よみ方

音羽山さ(沙)やか(可)に(耳)見(三)す(須)る白(し)雪(を)越(越)  
明(あ)け(介)ぬと告(つ)ぐ(久)る(流)鳥(とり)の(声)聲(か)可(可)な(奈)

創作

### 習い方解説 (三)

木村東舟

音羽山さやかに見する白雪を  
明けぬと告ぐる鳥の声かな  
音とはや羽山、見はしら白雪を、あは明けぬと告ぐる鳥の声かな、たかくらのあんのきほんうた。  
 （高倉院御歌「新古今和歌集」）

「暁やみのうちに、山の形をくつきり見せる白雪の降り積もった音羽山を、すっかり夜が明けたと思いちがいで、ときを作る鶏の声よ」の意。

歌を作品にする時に、まずどのような構成にするかを考えます。古筆を参考にするのもよいでしょう。創作力を身につけ表現できるよう精進して参りましょう。

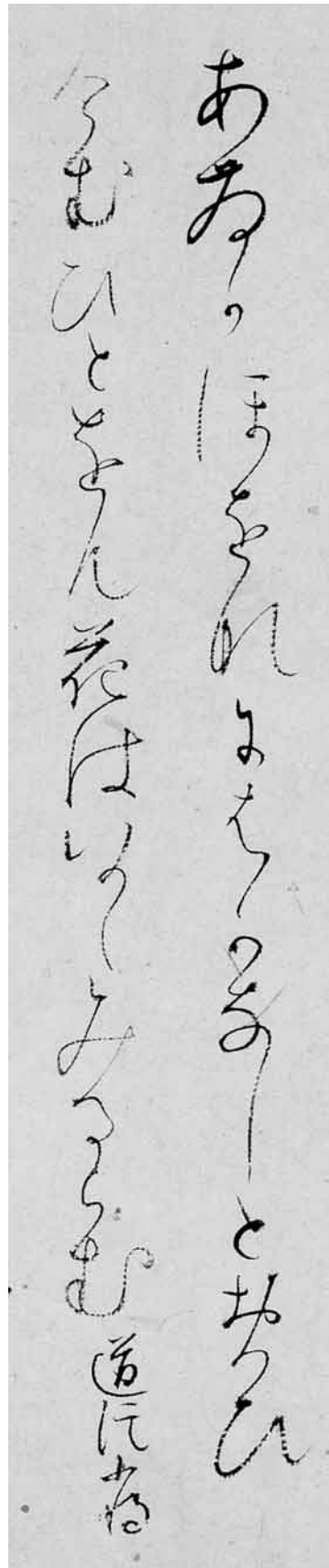
歌意から、キリッと身の引き締まる光景を感じ、鋭い線質を表現したく細めに書いてみました。漢字、かな、変体がなの組み合わせにより調和を計り、後半2行の裾の部分が、紙面右下の余白に向かっておさまるように傾けてまとめます。

\*料紙は半紙版(33.0×24.5 cm)を使用しましょう。

かな規定 秀級以下 【二月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連続または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大120%)



よみ方 あさ(散)が(可)ほをな(那)に(尔)は(者)か(可)な(念)しとおも(无)ひ  
け(介)むひとをも(无)花はいか(可)ゞみるらむ道信少将

### 習い方解説 (三)

佐藤 希雲

柿赤し書き反故は青い煙とする  
(荻原井泉水)

かな条幅規定 【二月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

佐藤 希雲 選書



よみ方 柿(可支)赤し書き反故は(盤)青い煙とする

創作

子規没後、弟子の高浜虚子と河東碧梧桐の二人がその遺志を受け継ぎます。碧梧桐は五・七・五の定型に制約されない新傾向の句を試み、その流れから尾崎放哉や種田山頭火が生まれます。  
今回は井泉水の自由律俳句を選んでみました。2行書きですが、漢字が真横に並ばないように配置にご留意下さい。

\*タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 〔二月十五日締めきり〕 用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書



倚仗望晴雪 溪雲幾萬重 樵人歸白屋 寒日下危峰  
(仗に倚りて 晴雪を望めば、溪雲幾万重。樵人 白屋に帰り、寒日 危峰に下る。)

書体 自由

漢字条幅規定 秀級以下 〔二月十五日締めきり〕 用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書



歲月不待人 (陶淵明)  
(歲月は人を待たず)

書体 自由

### 習い方解説 ③

名越蒼竹

明末清初の王鐸は長条幅作品の天才だと思います。その書は米芾からも強い影響を受けています。彼は異常なほど連綿線を多用した作品も書きました。しかし基本は意連がしっかりしていることだと思います。そして文字のデフォルメが隣行の字面と見事に調和し、しかも文字の重心移動が行の揺らぎを生み出しています。

※タテ形式に限る

### 習い方解説 ③

川島舟錦

年を重ねること、5年の月日が若い時の1年よりも短いという気がする。やるべきことは多いのに、やり過ぎてきたから大きなつげを痛感している。

父は、40代で逝去した。人生が短いか長いとか感じる間もなく懸命に生きたのだろうと、今頃になって思う。

一生懸命生きないと、未熟すぎる自分がある。歲月は人を待っていないてはくれない。今年ももう12月。

曲がった個性も生かして、互いを  
尊重し合う

良工が材を用いる、その木を屈せず  
して度を構う。聖君の人を使う、  
その性を奪わずして所を得しむ。

(性霊集)

個性を生かしてこそ大きな和が生まれる。  
琴水書

書体＝自由

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用  
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

◇注意!!  
用紙の大きさにばらつきが見られます。  
用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。

習い方解説 (三)

小林 琴水

優れた宮大工というのは、樹齢千年の木  
を使えば千年もつ寺社を建てるそうです。  
「その木を屈せずして度を構う」とは、そ  
れぞれの木の個性を生かしながら、まさに  
「適材適所」によって大きな家(度)を建  
てるということ。「よき指導者が人を用い  
るときは、個性を奪うことなく、能力や性  
格に応じた最適な持ち場を与える」と空海  
は言っています。

曲がった個性も生かし、互いを  
尊重し合う。  
良工が材を用いる、その木を屈せず  
して度を構う。聖君の人を使う、  
その性を奪わずして所を得しむ。  
(性霊集)  
個性を生かしてこそ大きな和が生まれる

空海「黄金の言葉」より

冬至 霜夜 ご厚誼 仕事納めに  
 歳の瀬の慌ただしい日々になりました

冬至 霜夜 ご厚誼 仕事納めに  
 歳の瀬の慌ただしい日々になりました

冬至 霜夜 ご厚誼 仕事納めに  
 歳の瀬の慌ただしい日々になりました

三浦鄭街

(楷書) 冬至 霜夜 ご厚誼 仕事納めに  
 (楷書) 歳の瀬の慌ただしい日々になりました

(行書) 冬至 霜夜 ご厚誼 仕事納めに  
 (行書) 歳の瀬の慌ただしい日々になりました

基本用語 「冬至」二四節季の一つで、一年で一番昼の  
 時間が短い日。12月22日頃の時候の言葉。

(掲載手本90%に縮小)

- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を
- ◇ 用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

木一作品  
各部総評

NO. 726

漢字部 師範 近藤 淑子

たっぷり豊かな筆線が温かみと滋味を感じさせてくれる。抑えめ表現も好ましい雰囲気。

◎漢字部総評 上級4字句はパランスの悪い作が多かった。字形、書体の工夫を。下級楷書表現は基本的な造形力の養成を。(大雲評)



漢字条幅部 師範 豊田 翠玉

大きく力強い波磔が木簡隸風の雰囲気やダイナミックに醸し出しのびやかな作となった。

◎漢字条幅部総評 漢字条幅部は上級下級共に書体自由で、様々な表現が楽しめる。普段からの基礎力を応用できる好機である。(大雲評)



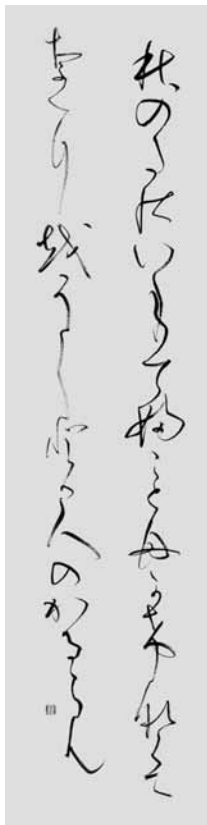
前衛書部 特選 中村 一琴

目標に向け力強い上昇意欲をストリートに表現。力量的にも無駄な線を省く技術が見え、感心した。◎前衛書部総評 物語性を訴える作品が多く楽しめた。前衛を多角度から考えた作品を請い願う。(慧香評)



かな条幅部 師範 齋藤 杏邑

視線が自然に流れてゆく美しい作品です。気負いのない表現は、作者の内面が十分伝わり魅力的。



現代詩文書部 特選 菊池 慶燦

「風鈴」に視線が絞り込まれ、その音の繊細さと季節感が頭の中で広がってくる。「風」の余白よい。◎現代詩文書部総評 素材を印象づける作品作り。濃墨、淡墨の特性を活かすことが必要。(掃雪評)



◎かな条幅部総評 概ね手本をよく理解した作品であった。墨量、墨色がかな的でない作多く残念。墨液使用は厳禁です。(明子評)

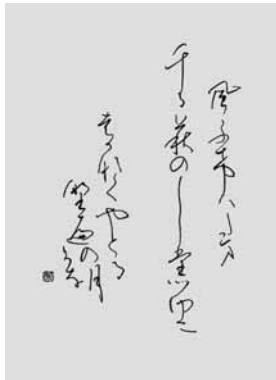
ペン字部 師範 敦森 佳菜

卓越した正確で丁寧な筆致と、漢字かなの調和が相まって美しく見事な行書作となった。清々しい。◎ペン字部総評 余白は大切な要素です。天地左右、行間の余白を適切にとることによって作品全体が引き締まります。(孝子評)

生きと〜 生けるものは  
みな父母である  
もし患眼をもて、れを親す  
れば一切の衆生はみな、れも  
が親なり。(教王経開題)  
輪廻というサイクルの中では  
親子も同然 佳菜書

かな部 師範 星野 栄花

直線のリズムが歯切れよく、爽快に響く。透明感のある空気が魅力。是非料紙を用いてさらに創意を！◎かな部総評 筆の弾力を生かした好感の持てる作品が多かった。料紙は紙質によって墨量の工夫が要ります。体得したい。(洋子評)





選評 岩垣若翠

錦秋菊花ご清祥 実りの季節  
 錦秋菊花ご清祥 実りの季節  
 秋雨に煙る中、木々の葉も色づき始め  
 秋雨に煙る中、木々の葉も色づき始め  
 及川明美

特選 及川明美

一点一画丁寧に字形を整えながら、  
 温和な線質が清々しい。

錦秋菊花ご清祥 実りの季節  
 錦秋菊花ご清祥 実りの季節  
 秋雨に煙る中、木々の葉も色づき始め  
 秋雨に煙る中、木々の葉も色づき始め  
 伊澤香雨

特選 伊澤香雨

筆勢があり、引き締まった爽快な  
 線条が魅力的な作。

◎実用書部総評

用紙の大きさと、文字の大きさ・配字が合わない作品があります。字間・  
 行間にも配慮してください。(若翠評)

うる	中川	八街	竹原	紅瑠	佳	蘭	たか	桜草	やま	深大	附中	四枝	芳蘭	千葉	白扇	大雲	水壘	特選	
篠原	加藤	大島	井ノ口	石崎	相澤	矢部	藤村	苗代	田玉	多胡	桑田	奥川	石毛	竹浪	天野	鷺山	伊澤	及川	
楊流	翠陽	竹鳳	俊美	敦子	作命書	永篁	昌子	佳恵	哲子	三子	由有	麗流	喜蘭	叙舟	白扇	美稍	香雨	明美	
水莖	たか	梓江	倉吉	清月	芳蘭	香苑	東総	有秋	桂無	千葉	八街	紅瑠	入	大雲	紅瑠	もく	森地	有秋	
清水	猿渡	佐藤	佐々木	小林	菅野	小川	岩上	飯塚	飯田	安藤	藍澤	藍澤	入	松永	保谷	西川	中嶋	東平	
蘭舟	篤右	祥扇	華月	静代	香輝	春緑	岩上	飯塚	飯田	安藤	藍澤	藍澤	入	松永	美岐	藤家	絹子	武山	
																			須藤
																			千恵美
																			源
																			八街
																			新條
																			幸三郎
																			雪
																			峰
																			雪
																			三郎
																			郎

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

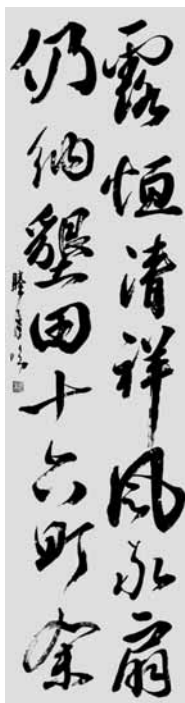
選評 辻元大雲 山口仙草 石井明子 三浦鄭街

小品の部

臨書

笨 睦月

「伊都内親王願文」



笨 睦月 臨

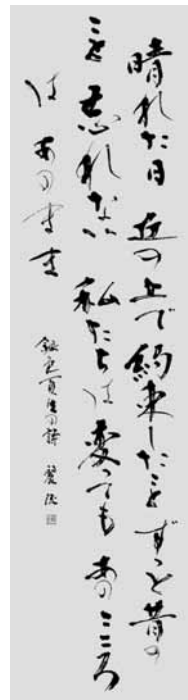
137×35cm

◆緩急自在の「伊都内親王願文」を半切2行に大胆に表現した。躍動感にあふれ、心地よい作品に仕上がった。(鄭街評)

現代詩文書 (四枝社)

奥川麗流

「銀色夏生の詩」



奥川麗流書

136×34.5cm

◆自然な運筆で、淡々と表現した作。滋味ある筆致が、平凡さを補っている。さらに変化とリズム感を。(大書評)

かな (宗苑社)

茂木絢水

「百人一首より」



茂木絢水書

135×35cm

部分拡大



◆1枚ずつが丁寧な仕上りで美しく、10枚の集合はさらに異なった趣を生み、引き込まれる。繊細さが魅力。(明子評)

臨書

(澄春会) 安藤麗華

「伊都内親王願文」



安藤麗華 臨

35×136cm

◆願文の特徴を捉え小品ではあるが、文字の大小・太細・墨量の変化など格調の高い臨書作。(仙草評)

総出品点数  
81点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

素雪 坂本 芳博

花壁 高橋 清琳

〔かな〕

卯月 木村 関泉

〔現代詩〕

蒼香 高橋 蒼香

墨孝 長井 孝子

四枝 塚田 美翠

〔前衛〕

大拙 佐藤 陽子

白珠 高原 梨秀

蓮紅 大友 紅蓉

〔臨書の部〕

〔漢字〕

堂光 佐藤 光耀

千葉 種谷 輝

紅瑤 中嶋 澤

八街 三浦 英樹

八街 十河 春景

小映 三浦 小樹

八街 豊嶋 春勝

紅瑤 原島 春江

澄春 土屋 恵仙

〔かな〕

上泉 早部 明

創作の部(34点)

漢字 6点

かな 15点

現代 12点

篆刻 0点

前衛 11点

臨書の部(47点)

漢字 44点

かな 3点

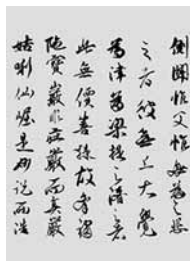
臨書 (たかむら) 浜野永篁 「伊都内親王願文」



浜野永篁臨

70×167cm

部分拡大



◆「伊都内親王願文」の特徴を的確に捉え、横形式2段の全臨作品。呼吸も乱れず最後まで根気良く丁寧な書かれた努力の一作。

(鄭街評)

臨書 (清月) 境野和子 「関戸本古今集」



境野和子臨

61×182cm

部分拡大



◆古筆の世界へ優しく導く力が伝ってくる。一貫した書きぶりは作者の精神力と美意識の高さの結実です。

(明子評)



西條松雲書

140×60cm

前衛書 (松風) 西條松雲 「初霜」

◆大胆な運筆が、大きな動きと躍動感を与え、気力気迫の作。紙面に真正面から向き合う姿勢を買う。

(大雲評)



小川白柳書

170×60cm

漢字 (八街) 小川白柳 「春望」

◆上部に墨魂を配し、下部に向かい躍動感溢れる濁筆が輝きを放っている。落款印の押し方注意されたい。

(仙草評)

<p>総出品点数 53点</p>	<p>〈特選候補者〉 〔創作の部〕 〔漢字〕 大拙 島中 成山 「かな」 玉松 橋本 紅霞 如月 治田 芳江 〔現代詩〕 千葉 平野 笛舟 もく 西川 藤家 四枝 大友 四峰 〔前衛〕 容洲 阿部 邑里 篤信 三浦 朱鳳 紅瑠 栗原 りか 紅瑠 佐藤 成美 〔臨書の部〕 〔漢字〕 英峰 吉瀬 彩雨 千葉 竹浪 叙舟 紅瑠 金井 みどり 秀恵 阿部 雅悠 紅瑠 相澤 敦子 大雲 江本 興舟 「かな」 千葉 松重 翠景</p>	<p>創作の部(34点) 漢字 4点 かな 6点 現代 7点 前衛 17点 臨書の部(19点) 漢字 17点 かな 2点</p>
----------------------	---	--

漢字研究部  
(伊都内親王願文)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



後藤白琴

漢字研究部 特選 後藤白琴  
緩急自在な運筆から生まれた鈍度の高い線質での表現見事です。ゆったりと伸びやかな運筆からは豊かさが非常によく伝わってきます。布置もよく余白美を生み出しています。真摯な学書姿勢が窺えます。

◎漢字研究部総評

伊都内親王願文は行・草混じりで書かれ、文字の大小、太細が極端です。強い筆力で自

由自在に表現されていて躍動感に溢れています。臨書するにあたっては原帖を丁寧に観察する姿勢が大事です。字体のわかりにくい所は字書で調べて筆を執る。今回特に誤字が多く見られた文字は「露」「永」でした。上位にある作にも見られ残念に思いました。臨書する意味を捉え、古典と真摯に向き合って学ぶという姿勢を養ってください。



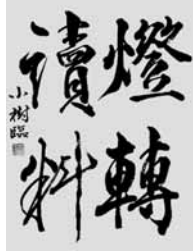
雲恒清祥風永扇  
仍御壁四十二町余  
庄一處島一町濠乞  
香燈轉讀料以爲宗  
京城仙



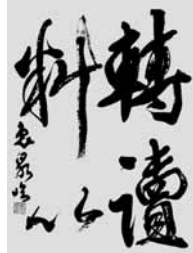
京城仙  
幸代  
喜美子  
小澤樹  
藍水



雲恒清祥風永扇  
仍御壁四十二町余  
庄一處島一町濠乞  
香燈轉讀料以爲宗  
小澤樹



千鶴  
喜美子  
小澤樹  
早苗  
美悦



悦和子  
早苗  
早苗  
早苗  
早苗



雲恒清祥風永扇  
仍御壁四十二町余  
庄一處島一町濠乞  
香燈轉讀料以爲宗  
春麗

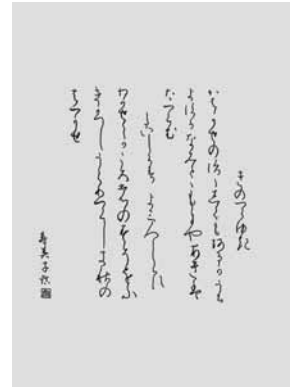


春麗  
春麗  
春麗  
春麗  
春麗

かな研究部  
(関戸本古今和歌集)

選評 奥田 瑞舟

今月のホープ作品



田 畑 寿美子



美香正  
代子舟子

薫俊悦  
子亮子

彩耶里  
雨衣美

愛奎知  
理心子

かな研究部 特選 田畑 寿美子

料紙の色も原帖に則り墨色も映えて、造形ともに特徴をとらえ巧みに表現された素晴らしい作です。丁寧な押印で落款も美しい。

◎かな研究部総評

関戸本古今集の線の厚みと粘りを表現するには料紙も一考を要する。あまり薄い紙は墨量の加減が難しいと思います。印の過大、雑な押印は作品の価値も下がります。要注意です。

かな研究部成績表

A	た	堀	誠	京	紅	正	高	澄	一	菊	秀	上	A	高	紅	上	東	大	菊	英	玉	葱	青	高	紅	
I	か	和	る	橋	瑤	華	真	雲	弦	月	歌	泉	I	崎	風	瑤	小	阪	月	峰	松	書	運	崎	風	
生	岩	石	飯	藍	東	岡	宇	磯	原	新	道	早	清	船	根	須	佐	島	吉	田	坂	都	沼	酒	田	
方	崎	崎	高	澤	澤	瀬	瀬	川	井	井	庭	水	通	津	津	岸	治	瀬	瀬	中	本	里	里	井	井	
由	美	悦	甘	花	白	麻	幸	春	智	典	惠	光	白	紀	麗	香	正	子	子	子	子	子	子	子	子	子
美	子	雨	生	珠	丸	幸	幸	春	智	典	惠	光	白	紀	麗	香	正	子	子	子	子	子	子	子	子	子
子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子
玉	如	や	蓮	大	墨	幸	桜	書	春	千	春	竜	董	竹	明	春	大	清	潮	清	有	祥	正	椿	た	
松	月	ま	紅	雲	か	扇	草	汀	草	葉	葉	川	書	原	漢	月	雲	音	音	秋	紫	華	翠	か		
佳	佳	ま	月	雲	か	扇	草	汀	草	葉	葉	川	書	原	漢	月	雲	音	音	秋	紫	華	翠	か	梅	
青	綿	山	増	堀	深	浜	野	苗	永	中	中	渡	高	関	代	嶋	境	齋	小	北	北	金	大	梅		
木	貫	口	田	切	野	村	井	山	村	子	子	子	橋	根	根	々	山	野	林	安	瓜	野	島	津		
作	智	子	佳	幸	佳	永	幸	佳	伯	一	紀	森	雅	芳	葉	与	木	美	和	嘉	美	志	和	鳥	子	
葵	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
郷	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
白	清	も	仙	光	彩	入	こ	京	竹	蓮	東	祥	高	竹	華	上	A	一	東	は	麗	上	上	菅	清	
鷺	月	く	台	彩	入	こ	京	竹	蓮	東	祥	高	竹	華	上	A	一	東	は	麗	上	上	菅	清	秀	
池	飯	新	熱	浅	吉	横	遊	山	山	矢	八	前	本	堀	早	島	長	永	中	利	筑	田	武	高		
島	井	海	海	川	野	田	山	本	田	川	多	江	坂	谷	谷	川	原	村	野	守	江	井	山	香		
結	ト	藤	松	江	桜	佐	紅	真	登	紀	瑛	幸	聖	久	洋	時	美	佳	淳	宏	哲	花	代	幸		
久	美	雪	翠	江	佳	子	舟	雅	紀	京	舟	仙	枝	朋	香	子	翠	子	子	子	子	子	子	子	子	
竹	高	書	正	華	光	芳	う	こ	大	真	泰	文	蒼	一	大	調	高	立	東	月	清	樹	泉	大		
扇	貴	書	華	玉	光	芳	う	こ	大	真	泰	文	蒼	一	大	調	高	立	東	月	清	樹	泉	大		
高	鈴	菅	神	柴	佐	佐	櫻	齊	齋	小	木	小	熊	熊	工	草	日	菅	河	金	萬	片	鍛	乙		
井	木	原	司	司	田	塚	藤	田	藤	松	林	小	木	小	熊	熊	工	草	日	菅	河	金	萬	片		
小	利	昌	玉	洋	謙	綾	龍	智	江	萩	秋	美	智	泰	宏	和	真	文	欣	白	静	和	照	佳		
利	昌	玉	洋	謙	綾	龍	智	江	萩	秋	美	智	泰	宏	和	真	文	欣	白	静	和	照	佳	佳		
秋	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
選	外	原	泉	蘭	だ	明	昌	幸	華	玉	椿	桜	た	華	掃	墨	石	幕	千	高	高	紫	祥	長		
選	外	原	泉	蘭	だ	明	昌	幸	華	玉	椿	桜	た	華	掃	墨	石	幕	千	高	高	紫	祥	長		
148	渡	渡	渡	吉	吉	山	柳	守	安	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三		
名	邊	邊	邊	野	田	口	谷	知	守	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三		
氏	邊	邊	邊	千	田	口	谷	知	守	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三		
名	邊	邊	邊	千	田	口	谷	知	守	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三		
略	邊	邊	邊	千	田	口	谷	知	守	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三		

●篆刻

【一月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰  
でも出品可。

- ① 摹刻 (フ) 課題による語句  
(イ) 原印自由  
(出品の際、原印)  
(のコピー添付)
- ② 創作 語句自由

○印面の大きさは2.3cm(八分角)以  
内とし朱文、白文自由。

○印箋は市販のもの、半紙横 $\frac{1}{2}$ の大  
きさに切ったものも可。

○創作、摹刻とも応募は一人一点。

12月号 篆刻課題

〈原印コピー〉



吳昌碩 (清)

「也軒」

◎出品方法

用紙の右側に押しし、左側に印影  
の釈文を明記、並びに落款(氏名)  
を入れる。

726号篆刻優秀作品

篆刻



「虚谷」

特選 林 淳一  
微妙な刻線の動きを確実に  
捉えて臨摹されている。観察  
度、随一。

創作



「清扇」

特選 佐藤 希雲  
作品全体に作者自身の力量  
を感じ取れる。運力も見事で  
ある。

選評 後藤 大峰

◎篆刻部総評

篆刻、創作共に手慣れた作者と未だ初心の域を出ていない  
作者と混在の状態が続いています。更に多くの皆様の応募を  
期待します。(大峰評)

<p>(摹刻)</p> <p>特選 小中 林 淳一</p> <p>秀作 (60音書) 附中 織田真奈美 磯水 久保村南城 遊雲 中川 研治</p>		<p>佳作 (60音書) 大雲 小沢 華仙 芳琴 小野寺 幸喜 北日 成田 能喜</p>	
<p>(創作)</p> <p>特選 大雲 佐藤 希雲</p> <p>秀作 (60音書) 小映 金谷 皓洋 眩耀 佐々木 育霞 生大 中晶 天峰 墨宣 西川 翠風 やま 藤本 清麗 粹仙 橋本 龍水 宗苑 茂木 詢</p>		<p>佳作 (60音書) 唯一 達沢 雅一 慈空 坂本 寛悠 石心 塚田 華所 四枝 塚田 美翠 京橋 辻川 陰子 富見 野木 紫蘭</p>	
<p>入選 (60音書) 大網 片岡 豪峰 高橋 豪峰 吉原 進</p> <p>(選外なし)</p>		<p>入選 (60音書) 遊雲 遊雲 水壑 水壑 峰雪 峰雪</p>	
<p>入選 (60音書) 宗苑 宗苑 粹仙 粹仙 藤本 藤本 茂木 茂木</p>		<p>入選 (60音書) 赤星 文庵 荒川 空華 伊澤 香雨 宮内 成歩 武藤 成歩</p> <p>(選外なし)</p>	

送料

- 1 か月の購読部数がある
- 1部〜9部までの一回の郵送料
- 1部 79円
- 2部 95円
- 3部 103円
- 4部 119円
- 5部 135円
- 6部 151円
- 7部 167円
- 8部 183円
- 9部 199円
- 10部以上は 送料免除

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は  
101-0031 東京都千代田区  
東神田一―一六―一七  
東神田プラザビル三階  
公益財団法人 書道芸術院  
電話(03)三三八六二―一九五四  
FAX(03)三三八六二―一九五七  
※お問い合わせ、ご連絡は、  
月曜日〜金曜日九時〜十七時の間  
にお願いします。(土日・祝日は休み)

コロナ禍の中、当分の間十時〜  
十六時に時間の変更しております。

令和三年十一月二十五日印刷  
令和三年十二月一日発行

定価 一部 七五〇円

編集兼 発行人 辻元洋一(大雲)  
発行人 アク処理 株式会社 リンクス  
印刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院  
〒101-0031 東京都千代田区東神田一―一六―一七  
電話 03-3862-1954  
FAX 03-3862-1957  
振替 00140-041335058  
ホームページ http://www.jins.co.jp/shogai/